

1 県政一般

	タイトル	意見等
1	新ホール建設に関して	後藤田知事、日々の県政運営お疲れ様です。 現在、議論が難航している県立ホールの整備計画について、現在の「藍場浜公園案」や「旧石上プラン」の二者択一ではない、徳島の未来を見据えた第3のサードオプション（敷地利用案）を提案いたしたく、筆を執りました。 私は、建設候補地はやはり歴史的にも実績のある「元の徳島文化センター跡地」が最適であると考えます。 しかし、単に元の場所に建てるだけでは、かつて問題だった「立体交差（高架下）の狭く薄暗い歩道を通らなければならない」というアプローチの悪さが解消されません。そこで、線路を挟んで西側に位置する「四国放送・徳島新聞社の旧社屋跡地」をセットで活用することを提案いたします。具体的には以下の通りです。 1. 西側跡地に小ホール、東側（文化センター跡地）に大ホールを配置する。 2. 2つの敷地をJRの線路の上空をまたぐ「空中回廊（連結ブリッジ）」でつなぐ。 このプランには、現在の泥仕合を解消し、徳島の価値を劇的に高める3つの大きなメリットがあります。 【歩行者動線の劇的な改善】 新聞社跡地側をメインエントランスや広場とすることで、徳島駅からホールへの入り口が近くなると同時に、来場者はあの暗く汚い高架下を通ることなく明るく開放的な空中回廊を通して大ホールへワクワクしながら向かうことができます。 【徳島の圧倒的なランドマーク化】 この場所は、京阪神からの高速バスが徳島中心部に入る際に必ず通る「徳島の玄関口」です。バスの車窓から、線路をまたいでそびえ立つ美しいツインタワーのような連結ホールが目に入れば、県外からの来訪者に「文化都市・徳島」を強烈にアピールできます。 【市民の納得とスピード感】 貴重な藍場浜公園の緑地を潰す必要がなく、すでに役割を終えた2つの跡地を利用するため、市民の反発を最小限に抑えられます。 これまでのメンツや過去のプランのぶり返しに囚われるのではなく、徳島駅東側の景観と利便性を一変させるこのような「未来志向のまちづくり」こそ、今求められているのではないのでしょうか。 民間の優れた跡地を活かし、行政の柔軟な発想で「これねら徳島県民が世界に誇れる」というホールを実現していただきたく、ぜひ担当部局にて具体的な検討を行っていただくようお願い申し上げます。
2	定例記者会見の開催状況	県のHPでは 定例記者会見は 原則として毎週金曜日午前10時から となっている。 しかし 7月は3, 10, 17, 24, 31と5回金曜日があったが 一度も開催されていない。代わりに？定例記者会見として14日（火）に 石上案ホールの展示会中止指示に関したものを開催。また27日には 石本建築事務所案に決定したことに関する臨時記者会見が開催されたのみ。2026年度の4, 5, 6月をみても 定例開催は4, 5月に3回のみ、臨時は6月に2回のみ。定例開催の意義・意欲は消滅しているのではないかと 知事出席が必須とかの記述もないので 知事不在あるいは不参加の場合は副知事中心で開催したら どうか？ 副知事の顔をよく知らない県民も多い（もしかしたら職員のなかにも いるかもと思う）ので 良いアピールになるのでは？

1 県政一般

	タイトル	意見等
3	発注案件が中止になるの多いが理由が不明	県の電子入札ホームページをいつも見ているが 最近特に 中止あるいは訂正扱いの案件が多い。その理由にはいろんな場合があると思うし、明記されている案件には 再発防止を期待するものである。しかし かなりの数の中止案件に その理由が全く記載されていない。どうか？ 現場の環境が工事の条件を満たしていない（変わった）、設計が不十分、予算がつかなかった、計画の見直しが必要になった、等々が考えられるが 理由を明白にするべきではないか？ 透明性の確保のためにも 明確な説明をお願いする。 また 中止になった案件は再発注する場合と完全にお蔵入りする場合があると推測するが それまでに要したコスト等は どういう扱い、処理をされるのか知りたいところ、いろんなケースが考えられるので ぜひ説明をお願いしたい。できれば再発防止策も。
4	透明度UP	○ 後藤田正純徳島県知事は子ども参観日の実施と共に、大人参観日も実施しなければならない。併せて、知事戦略局に県民の声を聞く秘書広報課の設置又は広報広聴課並びに県政広聴員の人員の配置をしなければならない。